〔科目名〕 哲学I	〔単位数〕 2単位	〔科目区分〕 教養科目
〔担当者〕 大森 史博 Ohmori Fumihiro	〔オフィス・アワー〕 時間: 授業の初回に提示する 場所: 613 研究室	〔授業の方法〕 講義
〔科目の概要〕 <p>この講義では、西洋哲学の歴史に登場する著名な哲学者、および主要な概念を厳選してとりあげ、解説し、考察をおこなう。哲学の学説や概念は一見ただけでは難解にも思われるが、その根本にある思考、核心にある問いに目を向けることにより、この学に端的に接近する。西洋哲学の歴史にあらわれる人物、思想、概念に触れることをとおして、われわれ一人一人が世界を生きることを学びなおすための思考の鍛錬をおこなう。</p>		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつか〕 <p>哲学は「知を愛すること」、つまり、あらゆる事象についての飽くなき探求を意味する。いかにも素朴な知の探求であると思われとしても、みずから「問い」をもつことが根本にある。この授業が企図するところは、具体的な経験と眼前の事象に即しながら、われわれの学問や知識の深層にある、そうした「問い」を再考することである。</p>		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 <p>中間目標: 西洋哲学の著名な哲学者の思想、主要な概念、核心にある問いを知る。</p> <p>最終目標: 学び覚えた哲学者の思想や概念をふまえ、自らの経験を背景にして、自分の問いを提起することができる。</p>		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 <p>ここ数年間の授業評価アンケートの指摘をふまえて、昨年度から、授業の形式および内容を大幅に改訂した。基本的には、毎回一つのトピックを読み切りにして、①前回の反復とあらたな問いの提起、②配布資料をふまえた解説、③ワークやレスポンスカードの作成、というように授業の組み立てをユニットにした。これにより、授業形式や時間配分に起因する理解の困難を取り除くことが、ある程度はできたのではないかと思う。</p> <p>視認性の問題が指摘されていた板書の使用をあらため、プロジェクターの使用に切り替えた。ところが、プロジェクターを使用する場合、あらかじめ用意しておいた内容が一举に映写され、部分間の位置づけや重要度が半別しがたいという指摘があった。配布資料、映像資料、音声解説、補足など、組み合わせや提示するバランスを吟味し、改善する。レスポンスカードやワーキングシートを用いて、一人一人にじっくりと考えてもらう機会をもつことができた点は好評だったようである。授業中に気になることや分かりにくい点があれば、その都度対応してゆくの、その時その場で遠慮なく申し出て欲しい。これからも授業の内容と方法を更新する努力を重ねていきたい。</p>		
〔教科書〕 使用しない。適宜プリントを配布する。		
〔指定図書〕 なし		
〔参考書〕 『よくわかる哲学・思想』 納富信留 ほか編著、ミネルヴァ書房、2019年 『図鑑 世界の哲学者』 サイモン・ブラックバーン 監修、熊野純彦 日本語版監修、東京書籍、2020年 その他、授業のなかで紹介する。		
〔前提科目〕 前提科目はない。春学期に開講する「哲学I」と秋学期に開講する「哲学II」は、各々が独立に完結する授業であり、どちらを先に履修してもよいし、どちらか一方だけを履修してもよい。		

<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</p> <p>全体の三分の二以上の出席を前提に、次のとおりの割合で評価する。 レスポンスカード・ワーキングシートの作成、授業内の活動や発言(50%)、期末の課題(50%)</p>	
<p>〔評価の基準及びスケール〕</p> <p>A:80 点以上 B:80 点未満 70 点以上 C:70 点未満 60 点以上 D:60 点未満 50 点以上 F:50 点未満</p>	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</p> <p>哲学には独特の難しさがあると思われるかもしれない。しかし、言葉や事柄そのものの難しさを、ひとつひとつ解きほぐしながら考える作業こそが哲学の営みである。この学に適した勉強の仕方は、この難しさを楽しむことにある。 自ら考え、自ら問いをもつことを本来として、焦らずに、ねばり強く、授業に参加して欲しい。 授業スケジュールに関して、以下の各回の進捗や扱う内容は、参加者の関心や進行に応じて変更することがある。</p>	
<p>〔実務経歴〕 該当なし</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか):オリエンテーション、「哲学とは何か」という問い 内 容:この授業の趣旨と進め方、評価の方法、哲学とはどのような学問なのか、問いと答え</p> <p>教科書・指定図書</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか):哲学の始まりについて 内 容:哲学とはどのような学問なのか(つづき)、アルケーの探究、不可知論、ソクラテス以前の哲学者</p> <p>教科書・指定図書</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか):問いの共有(1)起源について 内 容:ワーキングシートによる考察と展開、問いの反復と多様性、古典哲学と現代思想</p> <p>教科書・指定図書</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか):本質についての問い 内 容:探究のパラドクスとイデア論、想像変更と本質直観、プラトンの哲学</p> <p>教科書・指定図書</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか):原因についての問い 内 容:四原因説、アリストテレスの哲学</p> <p>教科書・指定図書</p>
第6回	<p>テーマ(何を学ぶか):問いの共有(2)問いについて 内 容:ワーキングシートによる考察と展開、対話法</p> <p>教科書・指定図書</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):「汝自身を知れ」という格率 内 容:オイディプス王の伝説、ソクラテスの死、自己の内省</p> <p>教科書・指定図書</p>

第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):問いの共有(3)自分を知るとはどのようなことか 内 容:ワーキングシートによる考察と展開、自我論と他者論</p> <p>教科書・指定図書</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):自由と必然について 内 容:神即自然、スピノザの哲学、多元論、ライプニッツの哲学</p> <p>教科書・指定図書</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):問いの共有(4)「なぜ」という問い 内 容:ワーキングシートによる考察と展開、理由について</p> <p>教科書・指定図書</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):知識と経験について 内 容:イギリス経験論、ヒュームの懐疑論</p> <p>教科書・指定図書</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):認識はいかにして成立するのか 内 容:コペルニクス的転回、カントの哲学</p> <p>教科書・指定図書</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):問いの共有(5)知について 内 容:ワーキングシートによる考察と展開、知の基礎づけ</p> <p>教科書・指定図書</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):時間がなぜ哲学の問題になるのか 内 容:時間と生、時間と永遠、永劫回帰</p> <p>教科書・指定図書</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):総括と補足 内 容:ワーキングシート紹介、講評、再考すること</p> <p>教科書・指定図書</p>
試験	